

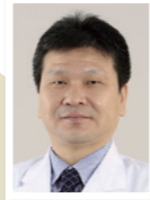
当院の治療で元気になった患者さんのエピソードをご紹介します。

入院で生活習慣を改善。 禁煙、減塩で血圧、血糖値も安定

63歳のBさんはさいたま市内の病院で初期の胃がんと診断され、糖尿病や高血圧もあり、地元の病院からの紹介で、当院の胃外科を受診。腹腔鏡下手術、開腹手術などの説明がわかりやすく丁寧で、信頼できると思い、当院で手術を受けることを決心。早く仕事に復帰したいことを告げると、主治医から「大丈夫です。仕事に復帰したいという気持ちを持ち続けてください。一緒にがんばって糖尿病や高血圧も改善しましょう」と励まされました。そして腹腔鏡下手術を受けて胃の約6割を切除し、がんを摘出。約1週間の入院中に、禁煙や食事の指導を受け、退院。自宅に戻ってからも、禁煙と減塩食、お酒の量も減らし生活改善に努めると、2か月後には血圧も血糖値も正常になり、降圧薬・糖尿病治療薬も必要なくなりました。手術から半年たった現在の健康状態も良好で、元気に仕事を続けています。



主治医の胃外科
小嶋一幸 先生より



Bさんが受けられた腹腔鏡下手術は、術後疼痛が少なく、入院日数も短いため、患者さんにとってやさしい手術です。Bさんのように早期退院でき、仕事への復帰が早いのもメリットで、当院での手術成績は良好です。



笑顔と元気を支える病院食に 取り組んでいます

臨床栄養部では、患者さんに喜ばれ、元気と笑顔を支える病院食づくりを心がけております。取り組みのひとつとして病棟のデイルームで患者さんとスタッフがカレーを食べる「カレーランチ」という病棟配膳を行っております。また有名シェフの指導を受けておいしさや食べやすさの研究会を開催。雑誌にも特集記事が載り、大好評でした。

当院の病院食が2014年8月号『毎日が発見』(カドカワ)に掲載されました



医療機関からの初診予約について

お問い合わせ先 03-5803-4655 (地域連携室)

ぜひご利用ください



FAX予約
の場合

FAX : 03-5803-0119
(受付時間 8 : 30 ~ 16 : 00)



に、紹介状・申込書を送信してください。速やかに当院より確認のお電話をかけ、FAXで「外来診療予約票」を返信します。

電話予約
の場合

TEL : 03-5803-4655
(受付時間 8 : 30 ~ 16 : 00)



に、電話をおかけください。その際に患者さんの氏名・生年月日・希望診療科名・予約希望日をお知らせください。

*土日祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)、および受診日当日の予約は受け付けておりません。時間外・休日などのお申し込み分は翌診療日にご連絡させていただきます。



メールマガジンにご登録ください!

医療連携支援センターでは、メールマガジンを発行しております。当院ホームページより医療連携支援センターにアクセスし、オレンジ色の「メルマガ申込」からご登録ください。



JR東日本：中央線・総武線(各駅停車) 御茶ノ水駅下車 御茶ノ水橋口(徒歩5分)

東京メトロ(地下鉄)：丸ノ内線 御茶ノ水駅下車東京医科歯科大学方面出口(徒歩1分) / 千代田線 新御茶ノ水駅下車 B1出口(徒歩7分)

東京医科歯科大学医学部附属病院 医療連携だより 8号

発行 〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45 東京医科歯科大学医学部附属病院医療連携支援センター TEL:03-5803-4655 FAX:03-5803-0119

http://www.tmd.ac.jp/medhospital/renkei/

本書の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き、禁じられています。



医療連携だより



東京医科歯科大学医学部附属病院の理念と基本方針

- 理念：安全良質な高度・先進医療を提供しつづける、社会に開かれた病院
- 目標：1. 患者中心の良質な全人的医療の提供
2. 人間性豊かな医療人の育成
3. 高度先進医療の開発と実践
4. 国民のニーズに応える開かれた病院

医療連携支援センター (地域連携室) TEL : 03-5803-4655 FAX : 03-5803-0119



財団法人日本医療評価機構 認定病院



TOPICS

- スポーツサイエンス機構がスタート スポーツサイエンスセンター長に室伏広治特任教授が就任
- 検査部が「ISO 15189」の認定を取得
- Patient Safety Award 受賞
- 「病院にアート」で女性を笑顔に… 周産・女性診療科
- 臨床栄養部のおいしい病院食への取り組み
- 元気になる! ~患者さんの声
- 医療機関からの初診予約について
- メールマガジン登録



病院長よりご挨拶

病院長に就任して早くも8ヶ月が過ぎました。皆様との「連携」を一つ一つ大切に積み重ねて、「顔の見える連携」を推進してまいります。当院の特色である医科と歯科の連携を生かし、患者さんのニーズに応じた医療を提供するために、救急医療の実施、在宅医療の支援、本院の電子カルテの紹介医による閲覧など医療情報の共有、紹介患者さんの受け入れ、患者さんの逆紹介、地域の医療従事者の皆様への研修などを通じて、今後も迅速で活発な医療連携を作り上げてまいります。引き続き、皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

医療連携支援センターの役割

- 紹介患者さんのスムーズな受け入れ
- 難病治療部の初診予約受付
- 一般診療の初診予約受付
- 入院・退院患者さんとそのご家族のサポート
- その他の医療・福祉相談



スポーツサイエンス機構がスタートしました

医学・歯学の臨床および研究において世界のトップを走る東京医科歯科大学では、スポーツ医歯学に基づき、スポーツ外傷・障害・疾病に対する予防及び診療と先進的な医療技術の研究開発を推進し、スポーツ科学理論に基づき、アスリートケア・パフォーマンス向上とトレーニング技術開発などスポーツ科学研究を推進する「スポーツサイエンス機構」を2014年10月より設置いたしました。そのセンター長には現役トップアスリートで体育学博士の学位を有する東京医科歯科大学特任教授・室伏広治氏が着任しました。スポーツサイエンス機構では、アスリートの疾病予防、診療、競技力向上、スポーツパフォーマンスなどをトータルにケアし、医師・歯科医師・理学療法士・栄養士・トレーナー・研究者の協力体制を確立して、2020年東京オリンピック・パラリンピックを始め、各競技会への支援体制を強化してまいります。



田中雄二郎スポーツサイエンス機構長より



「スポーツサイエンス機構」は、「スポーツ医歯学診療センター」と「スポーツサイエンスセンター」の2つのセンターから構成され、「スポーツ医歯学診療センター」は、スポーツ医学部門とスポーツ歯学部門により、スポーツによる外傷、使いすぎなどの過労性障害（いわゆるオーバーユース）のほか、運動誘発性喘息などの内科的疾患や、歯科領域のスポーツ外傷・障害についての診療を目的とし、アスレチックリハビリテーション、高気圧酸素治療、マウスピース・フェイスガードなどの、本学として特徴的な医科・歯科の幅広い診療も十分に活用してまいります。

「スポーツサイエンスセンター」では、スポーツ科学と、運動機能評価を基本としたトレーニングによるアスリートケアを行います。スポーツ科学理論に基づく動作解析研究やトレーニングプログラムの開発などの新たな研究事業を展開し、アスレチックリハビリテーションと連携することにより、高いレベルのパフォーマンス実現や、外傷・障害予防のアスリートケアの取り組みを行います。

2つのセンターを設置し、有機的に連携することで、アスリートに必要なトータルケアを一体的に提供するだけでなく、スポーツ関連の基礎研究、臨床研究や人材養成等の教育を行ってまいりますので、皆様の暖かいご指導とご支援をお願いいたします。

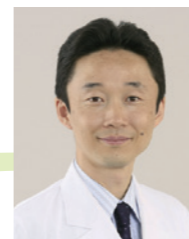
室伏広治スポーツサイエンスセンター長より



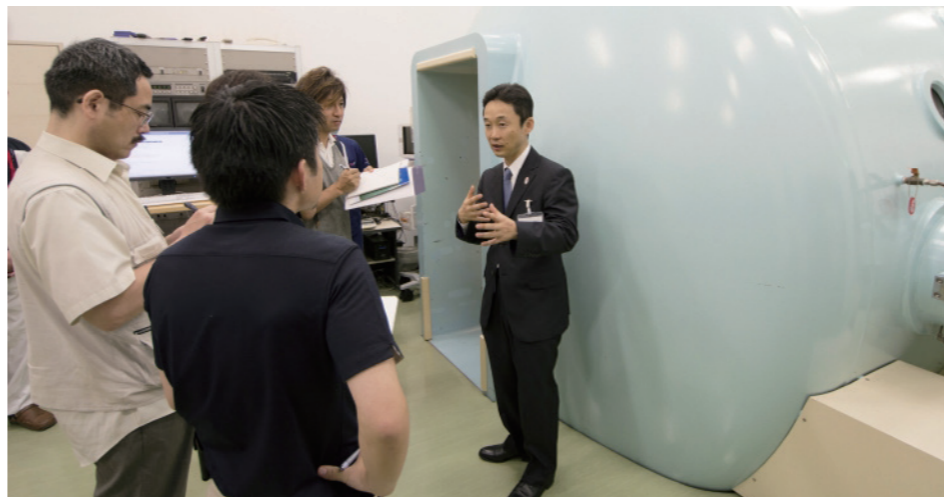
スポーツサイエンスセンターでは、アスリートの高レベルの競技復帰のサポートと、パフォーマンス向上のためのサポートを行っていきたくと考えています。スポーツ科学と運動機能評価を基に、理論と経験に基づくトレーニング方法を教授します。外傷・障害予防のためのアスリートケアを行い、トレーニングによる疲労を回復させると共に、アスリート自身の自己管理能力の向上を図ります。そして総合的に、より高いパフォーマンスを維持し選手寿命の延長につなげていきたいと思っております。また、動作解析研究や、トレーニングプログラム開発を進め、次世代のアスリート支援につなげていきたいと考えています。

国内外のスポーツ関連組織・団体・施設との連携を図り、現在第一線で活躍している選手だけでなく、ベテラン選手の運動機能の回復と向上、これから活躍が期待される若い選手に対しても積極的にサポートを行い、2020年東京オリンピック・パラリンピックで一つでも多くのメダルを獲得できるよう貢献したいと思っております。

柳下和慶スポーツ医歯学診療センター長より



本学のこれまでの実績を十分に活かし、医師・歯科医師、理学療法士、アスレチックトレーナー、栄養士などの連携を深め、より充実したアスリートのサポートとトータルケアを目指します。さらに、スポーツサイエンスセンターのスポーツ科学との緊密な連携のもと、受傷メカニズムの解析や予防プログラムの開発に取り組み、本学から発信する新たなスポーツ医歯学・スポーツ科学の展開を目指します。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



「ISO15189」の認定を取得しました

検査部・輸血部は、国際規格であるISO15189（臨床検査室一品質と能力に関する特定要求事項）の認定を平成26年6月12日に取得いたしました。そして、2014年7月30日には認定授与式が行われました。認定を取得したことにより、当院検査部・輸血部が発行する検査報告書は世界に通用する質の高いものであることが保証されました。検査部・輸血部では、今回の認定を励みとして、今後も引き続き、信頼性の高い検査を迅速に実施するよう努めてまいります。



「第1回 Patient Safety Award 優秀賞」を受賞しました

当院では、日頃から医療の安全・医療の質の向上に関して、積極的な取り組みを行っております。その功績が評価され、第24回国立大学附属病院医療安全管理協議会において、第1回医療の質・安全大賞において「優秀賞」を受賞しました。受賞した取り組みは、「血管造影・IVR（血管内治療）」「内視鏡検査・治療」を行う前に、担当するスタッフ全員で行う『安全チェックリスト』を開発し、実際にそのリストを活用して、安全チェックを平成25年4月より導入したことについて。ここ数年で急速に手術件数が増えている「血管造影・IVR（血管内治療）」「内視鏡検査・治療」をより円滑に、より正確に行うために、循環器内科、消化器内科、放射線部、光学医療診療部などの関係部署医師・看護師・技師・リスクマネージャーでワーキングを結成して、無理なく処置の流れにあわせて、それぞれのチェックリストを作成し、術前の短い時間でチェックできるようにしました。当院安全管理対策室では今回の受賞を糧に、さらなる医療安全の確保に努めてまいります。



「病院にアート」で女性を笑顔に… 周産・女性診療科

病院にアート作品を取り入れて、来院する患者さんやご家族の気持ちを明るく、前向きにしたい…そんな久保田俊郎科長の思いが、外来にも病棟にもたくさんちりばめられているのが、当院の周産・女性診療科です。



病院にも積極的にアートを取り入れようという取り組みは、1994年よりUNESCOのプロジェクトとしてスタートしました。その代表的な立場で活動中のデザイナーのアナグリウス・ケイ子さんが、当院の周産・女性診療科の外来および病棟のアート・デザインを手掛けてくださいました。アナグリウス・ケイ子さんは、医療に関わる道具としてのアート制作や建築設計デザイン、空間環境デザインなどを通じて、「アート・イン・ホスピタルプロジェクト」を推進しています。